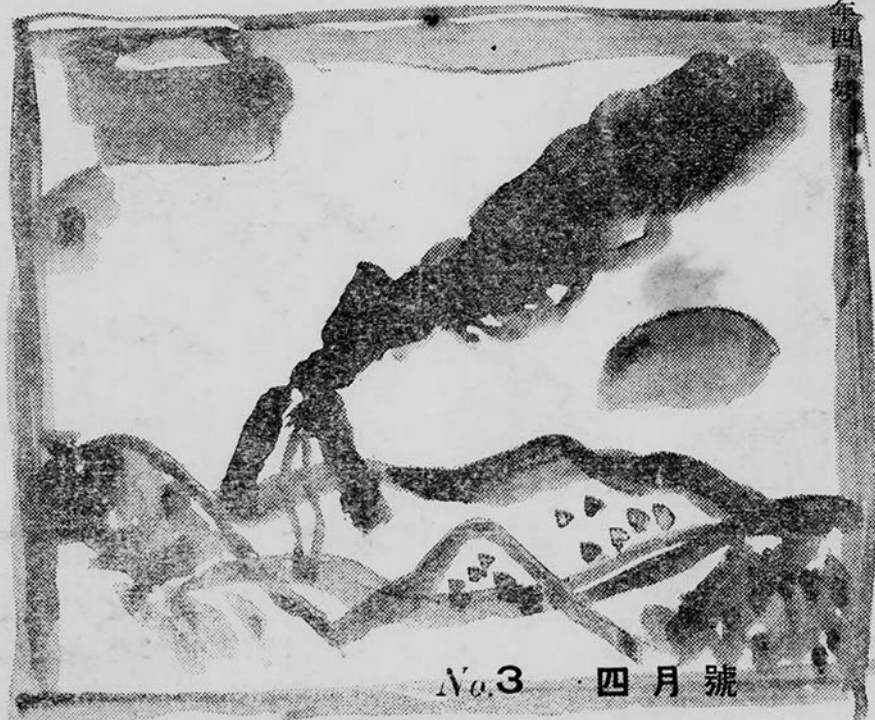


火山系

3

昭和二十八年四月一日発行才三号一九五三年四月



No. 3 四月號

火山系詩社發行



欠

火山系

作品

No. 3

二日月 三野 混沌

剝く 日野 利春

春の花 城山登余子

かげろふのギター 村越三樹夫

木枯 上田 冷人

編輯後記

消息

1953.4 3号

欠

尊くひらく

炎だ

まつことの楽しさ

おそろく

ちかづき

地表にいでて

肉色に秘めた

生の告白よ

思辨にたたへるよろこびが

こぼして

欠けのキラー

野田 浩二

かげろふのギター

村越三樹夫

六

まづしい療棟の患者達は
薄羽のかげろふを捉へて
小春日の絲を張る

もしも窓から

下手糞なつまびきが聞えてきたら
それは確かにかげろふのギター

まづしい療棟の患者達は

遠い假鳥に手をあげて

小石のように「くちづけ」を投げる

もしも彼等が笑止な恋を
なほ夢見て居たとしたら
それは去り行く假鳥の影
まづしい療棟のいちにちは
無花果のかほり 仔のない金魚
そして
群らがるきのこの踊り

夕 月

疾風の堕ちたところに
月がでて居た
しろい猫の様に
歩行いて来る

七

木 枯

上 田 冷 人

八

すでに季節にあらされ
そこには生の息吹も感じられない
すべてを失くしたものの
骨だけの鱗光が風にすさんでゆく
きびしさにただかいつかれ
暗い思ひに耐えかねて
地にへびりついて呪ふだけだ
いま青白くまたたく
天の星が何にならう
そこにはあやまちに強いられた
摩擦の減びゆく火を守り

焚 火

夜にかくれ微塵にくだけ
地のそこにただ呪ふだけだ
はちばちと力にみちて
あかあかあと燃えさかる
朝の焚火
その火を取り巻き
幾人かの人々は
おもへ／＼に手をかざし
顔ほてらしながら
それぞれ 楽しそうに
話し合つてゐる

九

夜明をまつてゐたものが

一度にとりもどした明るさなのだ

じゅんじゅんと澄む

寒気の夜明

私の心にも

いつかしづかに燃えうつる焔

華々しき絶滅の夜明だ

あたりはいまだ音響なく

骨ばかりの手を振る

冬木立

焚火にあたたまり

たのしく思ひを燃やしてる人々



凍るものと

燃えようとするものの

みごと強烈なひひめき

どこかで

錯覚の夜明だと

おどろき発する

鳥の鳴声
春の芽

土のなかから

わびるように

つぶやきでようとする

春の瞳

燃えてかがやく

春の芽よ
すすりなく感動よ

春 風

木のでつぺんからふりおちるささやきが
こぼれる明るさをとり圍む

天地の鐘

そこには誰かが待つてゐる

どこからくるのか乳のしぶきのような

なつかしい言葉をつづる

お前は形をとどめずに

たたみゆくやうにすぎさつてゆく

微笑だけを残して

◇

新しい道を光りゆくのだ

◇

心自由なるものの命

◇

しかもそのつぶやきは

また何處へゆくのであらうか

見えない人にいだかれ

透明なやさしいささやきがくづれ

しやはせはブツブツ鏡いつばいにかがやく

微塵にくだけながら

郷愁はすばやく走るのだ

編集後記

☆春は駈けるやうに微風のなかで生きづき光つてゐる、失つたものがぞくぞくと勢揃へしてそれぞれの態勢を整いはちめる頑ぜない子供のやうな心象に酔ふのである。これがおこれる楽しみとも云うであらう、火山系も出発ヨイの瞬間である。

☆才三号は印刷所の諸状勢によつて大変遅れて申譯ない才四才五号と追駈け取戻せる予定であるから御諒承ありたい。

☆三野混沌氏の評論は三野氏が最近炭礦のボタ山研究のため出張調査に趣いてゐるので次号に間に合せるので御期待下さい。

☆好間中学校々歌が上田冷人作詩にて昨年十一月制定され去月千葉實作曲にて發表会を行つた。

☆上田冷人「三詩集」田園心象「印刷中につき五月上旬發行出来る予定であるからよろしく御協力願ひたい。

☆才四号より火山系も一人前の詩誌として自負し得るものと同人一同張りきつておりますので何分よろしく御期待下さい。

☆才三号への批評並びに御厚意にあづかつた諸氏に対し大変に失禮しておりますが誌上をもつて厚く御禮申上げます。今後共火山系がよりよき發展のために御指導御鞭撻下さるよう重ねて御願ひいたします

(上田冷人)

☆七人の子にそれぞれのぞみいだきおごりのごとく夢に見んとす。

☆子を抱きあつきものにもふれしと思ふその感動に酔ふにはあらず。

☆子を抱きあたたかさになんて寝て物書くはいつよりか吾が習慣となる。

☆ぶさまる葉の花の匂へに刺戟されほしいままなる黄の視野にたつ。

☆雪崩れして踏切を越す人のながれ淋しきもの隨性のごとく。

☆とぼけたるさまに桜の咲きようが野原にありて吾も呆ける。

☆芽水仙はかがやき發し透色の朝はおろかな感動しきり。

人愛社
編輯人 上 田 冷 人
發行所 植 山 系 詩 社
福島縣平 市外好間村今新田吉田
¥ 3 0 (〒8)

